



全体会では、58人の市民の皆さんにご参加をいただき、議会改革特別委員会より、開催に至った経緯や趣旨について説明しました。

## 全体会

## 市民と議会との

## 意見交換会及び報告会を

## 開催しました

市議会では、市民の皆さんから直接ご意見やご提案をいただき、議会として積極的な政策提言を行うため「市民と議会との意見交換会及び報告会」を、7月27日(日)午前10時から、江南市民文化会館で開催しました。

## 分科会

全体会終了後、常任委員会ごとに分かれて、それぞれのテーマについて、市民と市議会議員が活発に意見交換をしました。

担当委員会	意見交換会のテーマ	参加人数
総務委員会	「みんなで考えよう、わが街・わが家の防災対策」 ～水・食糧の備蓄、 家財転倒防止対策、etc…～	16人
建設産業委員会	・公共交通のあり方について (いこまい CAR 予約便など) ・江南市のイベントの方向性について (藤まつり・市民まつりなど)	26人
厚生文教委員会	高齢者と子どもの見守り活動について	15人

## 総務委員会

東海・東南海・南海地震が連動して発生すると言われ、そのため市の予想震度5強が6弱へと引き上げられました。市に津波、崖崩れは無く、液状化も起こりにくいと言われていますが、備えあれば憂い無し。防災・減災に努めなくてはなりません。

阪神・淡路大震災の死者の78%が家屋の倒壊による生き埋め、9%が家具の倒壊による圧死でした。助かった人たちは、消防、警察、自衛隊による救助もさることながら、市民、消防団、隣近所の助け合い、民間企業の資機材による救出等が多くありました。東日本大震災では、死者の90%が水死でしたが、ある地域では「津波でんでんこ」の言い伝えもあり、一斉に逃げて助かった学校もありました。このような災害の教訓から、行政は法整備、体制整備、備蓄等を構築してきましたが、防災・減災の原則は、自助が一番大切で、次に隣近所や地域の共助そして公助の充実が求められます。このような観点から、江南市の家屋の耐震化率、家財転倒防止費助成制度の活用実績、住宅用火災警報器設置率、市の備蓄品一覧表の資料を確認した後、活発な質疑がなされました。

### ▼質疑応答

**問** 家具転倒防止資材等助成制度を知らなかった。もっと広報を願う。また市の食糧備蓄が少ないのではないか。

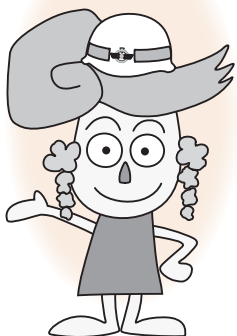
**答** 広報に努めます。備蓄については、新しい県防災計画に基づき、市の計画を策定中であり、検討します。また、市内のスーパー各店、薬局、食品工場などと相互応援協定を締結しています。

**問** 地域防災マップの記載内容は何か。五条川、青木川の氾濫は過去にあったのか。

**答** 防災マップを作成した飛高区では、防災会長と区長を分けています。会長の任期は2年で再任可。防災会が区内を歩いて、消火栓、消火器、防災倉庫、AED、通学路、大雨浸水地域、ブロッック塀、避難場所、コンビニ、スーパー、医院などを記載したマップを作成しました。さらに今後は、共助の一助として、「安否札」を各地区防災会毎に作成してほしいものです。費用の半額は防災費の補助があります。

※河川の氾濫の質問は、当日お答えできませんでしたので、次のとおり回答します。

河川の氾濫は、明治元年の入鹿池決壊、同18年に木曾川決壊がありました。その後、河川の決壊はありません。大雨による般若排水路、青木川の一部の溢水はあります。



**問** 避難所の開設、運営について、市の職員体制はどうか。他市との相互援助体制はどうか。

**答** 市の職員は避難所運営ゲーム（HUG）という机上訓練を受講しています。実際に大雨警報では避難所を開設していません。大災害の場合は、市職員だけで運営できるとは考えていません。多くのボランティアが必要と思います。他市との相互応援協定は、尾張北部の4市2町と、中部9県1市と、また全国の藤の花の縁で12市と締結しています。遠隔地として稚内市と協定を締結する予定です。

**問** 情報伝達はどうなっているか。FM一宮局との連携を図ってはどうか。

**答** 情報については、市内66か所に屋外拡声器を設置。有償で500台の防災ラジオを配布。江南市「あんしん・安全ネット」で8675台の携帯電話、スマートフォンへ迅速に情報を配信しています。さらなる携帯、スマホの登録をお願いしたいと思います。

※FM一宮局との連携の質問は、当日お答えできませんでしたので、次のとおり回答します。

FM波の到達範囲は、国からの許可で一宮限定となっていますので、江南との連携は困難です。

**問** 震度4で都市ガスを遮断し、火災を防いだ市があるが、江南市はどうか。市のプロパンガス、都市ガスにはマイコンメーターが付いていて、震度



飛高区自主防災会より借りた防災MAP

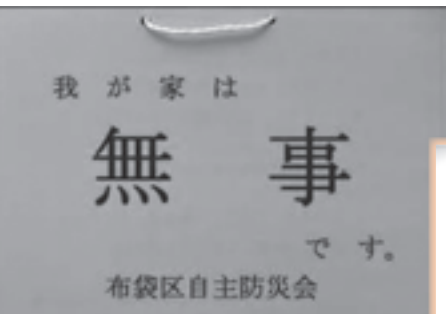
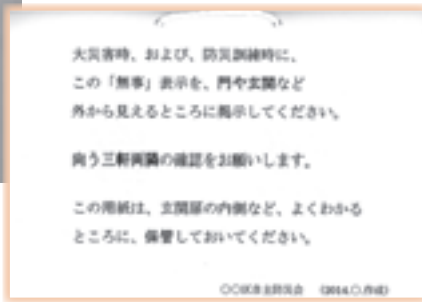
5で遮断するようになっていきます。

**その他・要望** あいち防災リーダー会などの研修を受けた、自主防災会組織があるのも、市はもつと活用を考えてほしい。また、防災訓練時に展示している、防災グッズなどに、もつと関心を持つようにしてほしい。

**紹介** ▼江南市家具転倒防止資機材整備費補助制度について

**対象者** 市内在住者。1世帯1回まで

**対策** 家具の転倒防止・落下防止器具



布袋区自主防災会で実施中「わが家は無事です」安否札

ラスの飛散防止フィルム等の工事費補助 購入、取り付け費用の2分の1程度5000円まで

**申込先** 防災安全課へ、印鑑、領収書振込口座がわかる通帳を持参

## 建設産業委員会

交通空白地域の解消を図るため、また自家用車や公共交通機関を利用できない方のために、平成19年10月から「いこまいCAR（予約便）」の運行が始まりました。利用者は毎年増加しており、それとともに市の負担額も増加の一途をたどり、昨年度決算では約4140万円に上っています。

今年3月末現在、約6000人が登録し、60歳以上がその8割を占めています。昨年度、運行便数の約90%が60歳以上の方に利用されています。利用目的別で一番多いのが通院で約63%です。

名鉄バスについては、昨年4月から江南・病院線1がすいとびあ江南まで延伸されました。また、「江南団地線」は路線が分割され、かつ江南団地から厚生病院まで延伸されました。市は名鉄バスに対して赤字補てんを行っており、昨年度決算では約1815万円を支出しました。

イベントについては、今年市制施行60周年でさまざまな冠事業が実施されています。

▼今後の公共交通の考え方について  
**問** いこまいCAR予約便は画期的であつたと思うが、事業開始から6年が経過し、利用者も予算も増えており、ある程度の限界に達している。

近隣自治体では巡回バスなどが運行されている。公共交通のあり方をもう少し幅広い見地に立つて考えてもらいたい。※それぞれの議員から次のような意見が出されました。

★委員会としてまとまった意見を持つておらず、それぞれの立場で意見を述べています。皆さんの声を聴いて動かなければいけないと思っています。

タクシーを利用した公共交通には限度があります。毎年ほとんど利用が増えているので、年齢制限などの方向付けをしないとやっていけないと考えます。ただし、自宅へのドア・ツー・ドアなので、高齢者にとってはありがたい制度です。

小型でもよいので、バスを走らせることを検討しなければなりません。健全者にはバス停のあるところまで歩いていただきたいです。

★単純に巡回バスを走らせればよいという問題ではありません。

巡回バスの一番の問題はルートです。交通空白地域を全部回れるのか、便数にも問題があります。近隣自治体が巡回バスを走らせていますが、便数が少なく、あまり効果が出ていません。費用対効果の問題もあり、例えば、小牧市では毎年1億数千万円の経費が

かかっています。相当な経費を負担することに、市民の皆さんのご理解が得られるのか疑問です。

自治体の財政力を踏まえて考えなければいけません。巡回バスに湯水のごとく使うのはどうか。また、いこまいCAR予約便の現在の登録者は6000人とどまっております、それほど利用されていない、その点についても議論すべきです。

★いこまいCAR予約便をこのまま続けていいたら、費用がどんどん膨らみます。しかし、これをなくして巡回バスだけにしてもうまくいきません。どのように調整するかが課題です。

市民目線で見ると、近隣自治体の巡回バスは自己負担が少なく、便利で出かけやすくなっています。

一方、いこまいCAR予約便は非常に便利ですが自己負担が重く、自由にかけられるようにはなっていません。目指すべきは、低所得の高齢者でも安い費用で自由に出かけられる公共交通体系です。

★いこまいCAR定期便の試行運転も行ったが、ほとんど利用がありませんでした。というのは、市民は車を使って買い物などの日常生活を送っているからです。

今後、2025年問題（団塊の世代の高齢化）が起きることも踏まえて、公共交通のあり方について議論していかなければなりません。

**問** いこまいCAR予約便の利用者層に偏りがあるのではないか。市民全体が満足する方向で実施されるように切望する。

**答** いこまいCAR予約便については、市街地の住民の登録率が高く、利用率はもつと高いです。逆に、周辺部の住民の登録率が低く、利用率はもつと低いです。この現状を踏まえて、より良い制度を作っていくかなければなりません。

巡回バスを走らせるにしても、ルートをしっかりとしないと、市民の足として活かすことができません。

買い物する所がなくなっているのが現実です。それをカバーするために公共交通が必要なのか、あるいは歩いて行けるところに商店が必要なのか。これ考えるのが喫緊の課題です。

▼厚生病院への要望について  
**問** 病院への通院に、マイクロバスを走らせることを考えたかどうか。高齢者が利用しやすいよう、交通網を全体的に見直してもらいたい。

**答** 厚生病院は利用者向けのバスを全く走らせていません。厚生病院にバスを走らせるよう要望するのも一つの方法です。

▼後援イベントへの支援について  
**問** 小さなイベントに対して、市は後援名義を出すだけで他に何も支援がない。例えば、会場使用料を減免するといった支援ができないのか。

**答** ご意見として承っております。

## 厚生文教委員会

少子高齢社会が急速に進む中で、高齢者と子どもの見守りについては、行政の取り組みだけでなく、江南市でも市民協働の中、地域の皆さんで力を合わせて活動していく必要があります。

高齢者の見守りについては、孤独死が社会問題になっている中、独居高齢者の地域での見守りと、認知症の方及び家族を地域でどのように見守っていくのか。

また、子どもの見守りについては、安心して、子どもを産み、育てる環境を整備するためにも、子どもの見守りが大切になります。子育て支援課での保育園、学童保育、一時預かり支援、児童虐待防止への取り組み、及び就学後は教育課の障害児教育、いじめ、不登校、通学路点検など安全対策、最近重要視されてきた防災教育の取り組みを紹介し、市民の方のご意見・ご要望をお聞きして、今後の議会活動に生かしていきます。

▼児童館の高齢者の活用について  
**問** 児童館は本来、子どものために建てられた施設なので、高齢者が使用することは難しいと言われているが、地域の高齢者も多く、学童保育や塾に行っていない子どもと触れ合える施設にできないか。

**答** 児童館の活用について、努力していきます。

保育園・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	178
学童保育所の迎え及び帰宅後の預かり	75
保育園・幼稚園・学童保育所の登園前の預かり及び送り	103
子どもの習い事時の送り迎え	113
子どもの病気時の援助	8
保護者等の外出の場合の援助	7
保護者等の冠婚葬祭による外出・他の子どもの学校行事の場合の援助	0
保護者等の短時間、臨時的就労の援助	78
その他	14
合計	576

援助会員	83
依頼会員	306
両方会員	43
合計	432

**問** 地域での見守りの場所の確保について、空いた土地、空き家利用などの場所を提示できる仕組みを作りたい。また、児童相談所に頼らないで、市独自の体制

▼ファミリーサポートセンター等、子どもを預けられる施設について  
**問** 働くお母さんが増えている中、ファミリーサポートセンターの利用希望数と、要望に対して何人が応えられているのか。また、このような制度があることを市民の方に知らせて欲しい。  
**答** ファミリーサポートセンターは生後7ヶ月から援助会員が必要な方が利用できます。また、市内の保育園では、一時保育を行っています。もう少し増やす意見は議会でも要望しています。また、広報において紹介されています。

**答** 議会としては、今年の5月の臨時会で、「図書館問題特別委員会」を発

▼元気な高齢者の活用について  
**問** 高齢者は弱者なのか。誰かの役に立てることができることを教えに行くとか、ごみを出してあげるとか、もっと活躍の場を設けていただけませんか。  
**答** 現在も、活躍していただいている事例があります。とても大切な事だと思います。  
▼江南市立図書館について  
**問** 1人当たりの貸出図書や図書館が見劣りするなど、市は図書館への優先度が低く、力を入れていないように見受けられる。議会としてはどのように考えているのか。

を作るべきではないか。  
**答** 市には児童養護施設がないため、近隣市町の施設を利用しています。市に施設が必要になることは認識していますので、引き続き要望していきます。  
▼通学路の安全対策について  
**問** 古知野北小学校に通う、般若町、中般若町の通学路は、大型トラックやダンプカーが乗り入れ、歩道も狭く、安全対策がなされていない。議会でも関心を持ってもらえないか。  
**答** 通学路の危険箇所については、議会でも指摘され改善もされている所があります。今回の箇所については、古知野北小学校と教育委員会とも協議して、どういった方法があるのか検討させていただきます。

**答** 図書館は、将来的に今の場所が良いのかも検討していく中で、交通手段の要望は多くお聞きしていますので、市

基金については、修繕に使うのではなく、新図書館建設に活かして欲しい。  
**問** 図書館への巡回バスなどの交通手段を整備して、利用しやすいようにしたい。  
**答** 図書館は、将来的に今の場所が良いのかも検討していく中で、交通手段の要望は多くお聞きしていますので、市

足し、10万都市としては狭隘等、利便性も含めて1年間かけて図書館の在り方を議員同士で話し合っています。新しい図書館をつくるのか、現在の図書館をどうするのか。インターネット等情報時代でどのような図書館が良いのかを協議していきたいと思えます。  
**問** 以前に、図書館建設の署名を実施し、期待をしていたが何も進展がない。市民も一生懸命だったのでさみしい思いがある。図書館建設の積立金はどうなっているのか。  
**答** 新図書館建設事業基金は、7億円余になりましたが、途中で積立は中止になってしまいました。この基金は、一部を取り崩し、現在の図書館を活かすために使っていくことになり、バリアフリー化や図書館東南の民地の購入に使用することになりました。基金の使い方も含めて、これからの図書館について協議をしていきたいと考えています。

への要望を継続していきたいと考えています。

### アンケートを実施しました

今後の運営の参考とさせていただきます。今後の方々にアンケートをお願いしたところ、49人の方に協力をいただきました。

「開催日時」については、ほとんどの方から参加しやすかったとの回答を得ました。

「議会報告はどうでしたか」の問いには、概ね良かった。また、「参加した意見交換会のテーマ」についても、大半が良かったという結果でした。

このアンケートの結果を踏まえ、次回の意見交換会及び報告会を開催します。詳細が決まりましたら、広報こつなや市議会ホームページなどでお知らせします。

なお、今回の意見交換会及び報告会の内容は、市議会ホームページでも掲載していきますのでご覧ください。

次回は、11月15日(土)開催予定です。皆さんのご参加をお待ちしています。

